なくそう原発

3.11 府民1万人集会

大阪自治労連は各単組から家族も含め500人余りが参加

福島で16000人 東京で8000人 など列島各地で「なくせ原発」

扇町公園に「未来を守るために原発のない社会を実現しよう」と8000人が集まりました。福島で農業を営む三浦広志さんは「汚染されてしまった大地で農作物を作り続けながら放射能を測って公表することを通して、私たちは放射能の恐ろしさと原発のない社会をつくることを訴えていきます」という力強い決意を述べました。

私たち一人ひとりに何ができるのか、その思いを集めてどう行動にあらわすか、あらためて考える集会になりました。

ママと参加しました！

第22回大阪自治労連駅伝大会 ▶ 東大阪市職労Ａチームが優勝！

優勝した東大阪市職労Ａチーム（中辻教弘さん、中川貴裕さん、大塚芳郎さん、石田壽平さん）

３月３日（土）、第22回大阪自治労連駅伝競走大会が堺市・大泉緑地で開かれました。一般の部で10単組18チーム70人が、女子の部では、３単組２チーム６人が参加。要員・応援団あわせて約100人となりました。快晴の空のもと、楽しく真剣に日頃の鍛錬の成果を競いました。東大阪市職労Ａチームが優勝、２位は堺市職労Ｃチーム、３位には岸和田市職労チームが入賞しました。

個人参加した大阪市労組の前垣さんは「この間、橋下市長の問題で大阪自治労連の仲間にたくさん支援してもらっているから、とにかくいっしょに走りたい」と一人で４周12㎞を走破しました。

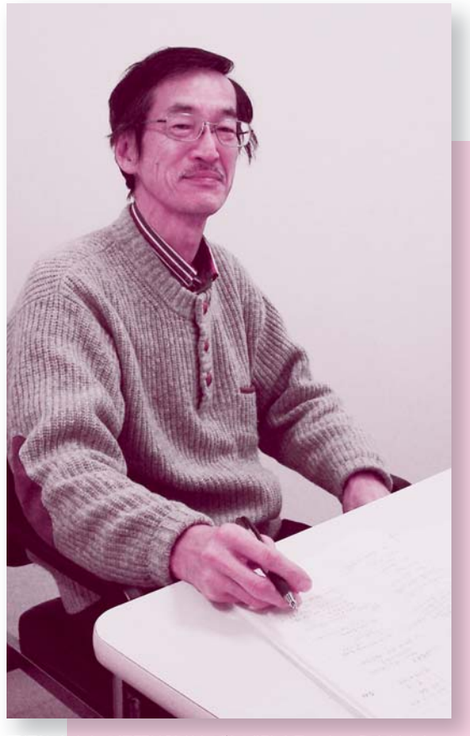
おおさか自治体の仲間　発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2012年３月15日　No.278

〒530－0041　大阪市北区天神橋１－13－15大阪グリーン会館４Ｆ　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／前田　仁美　編集人／渡辺　真千
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

きっと 変わる！ 必ず 変わる！

吉村　定教（さだのり）さん
大阪府職労・健康福祉支部
（池田こども家庭センター・生活保護担当）


手塚治虫さんの漫画は読むたびに感動する…という吉村さん。「おおさか自治体の仲間」の4コマ漫画の作者でもあります

重度障害の方とすごしてわかった社会の矛盾

大学時代、当時まだマイナーだった社会福祉の分野を選んだ吉村さん。京都学生ボランティア協会に所属するサークルで重度の障害の方と一緒に過ごす中で、普通に経験できることも障害があるためにできないということを初めて知りました。

そして、23歳で大阪府にケースワーカーとして就職。配属先は、それから30年間仕事をすることになる軽度の知的障害者施設「明光学園」です。

「利用者さんと喜怒哀楽を共にする経験ができて、本当にいい職場でした。しかし、今の障害者自立支援法は、応能負担から応益負担に変わっただけでなく、『施設から地域へ』という施策の強化で、地域で暮らすか、施設で生活するかの選択肢の幅が狭められています。その背景には、福祉を安上がりですませようとする意図があり、問題点が多い制度です」と語ります。

生き生き働くために仲間とともに組合活動

労働組合との出会いは「仕事につくとすぐ、先輩から組合加入の誘いを受けて加入」。その後、府職労で一番大所帯の健康福祉支部の書記長を10年、支部長も10年あまり。「みんなで生き生き働ける労働条件をめざしました」。その間で一番印象に残っているのは、「１９８９年12月の組合が分裂した大会です。これでいいのか？これからどうなるのか？同じ職場の仲間だったのに、分かれてしまうことに空しさを感じました。今も職場では住民に喜んでもらおうとみんな一生懸命仕事をしています。それを脅かすこの間の橋下・『維新の会』の動きは本当に許せません！」

もうひとつの生きがい それは「漫画」

吉村さんには、もう一つの顔があります。それは「漫画作家」。手塚治虫のファンで「鉄腕アトム」が大好き。小さい時からあこがれの漫画の上にちり紙をおいて鉛筆でなぞっていました。大学時代、自分の絵がサークルのチラシに初めて印刷されたことにうれしさを感じました。組合活動でも「漫画力」を発揮。支部の機関紙やビラに描き続けて今日に至っています。

猫のキャラは支部機関紙のキャラクターとして定着しています

「閉塞感」は必ず変えられる

「今、地域や職場には閉塞感が広がり、理不尽なことにも声をあげにくい状況に追いこまれています。しかし、私は〝必ず変わる〟という希望を持つことができます。それは、黒田革新府政の時期に大阪が変わっていくことを実感したからです。こんな困難なときだからこそ、私たちは、歴史の歯車を動かす一人の人間として何ができるのかを自分自身に問い直す時期にきているのではないでしょうか」と熱く語る吉村さんです。